

● 鎌倉市本庁舎等整備市民対話（第 4 回）：

拡張ワークショップを開催しました。

鎌倉市では、平成30年（2018年）度末までを目標に、新たな本庁舎の基本構想の策定に向けた取組を進めています。

0. 実施概要

市民目線や市民感覚を取り入れた「本庁舎等整備基本構想」の策定を目指し、取組状況を市民の皆さまに広く共有するとともに、新たな本庁舎のあり方・理念について多様な意見を伺うことを目的に、次のとおり鎌倉市本庁舎等整備市民対話（第 4 回）を拡張ワークショップとして開催しました。

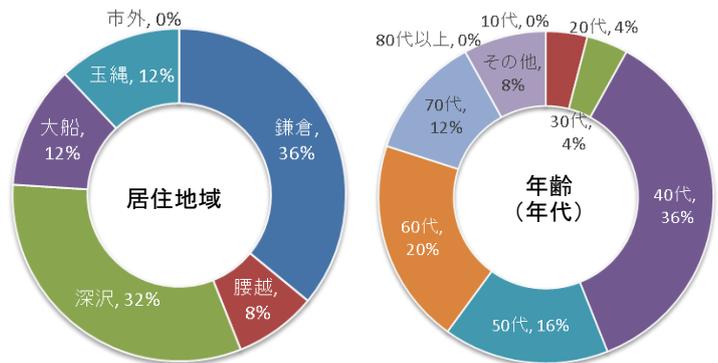
1. 開催概要

拡張ワークショップは、「本庁舎のありたい姿及び導入したい機能」について対話した過去 3 回の市民対話の結果をもとに 2 部構成で行い、市民対話メンバー（無作為抽出により案内状を送付した市民の中で参加を希望された方）に公募の市民の方々と交えて「新しい本庁舎で実現・追加を期待したいこと」、「現在の本庁舎の場所で実現を期待したいこと」について話し合っていました。

日時 平成30年10月 8 日（月） 第 1 部：13:30～15:30／第 2 部：16:00～18:00

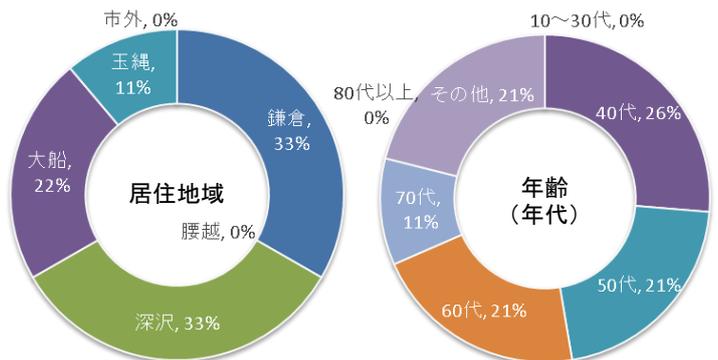
会場 深沢学習センター 3 階 ホール

出席者 第 1 部：39 名
（うち 12 名へは別途
詳細説明、2 名は開始
直後に参加辞退で、計
14 名が対話不参加）



第 1 部の対話の参加者 25 名の属性（居住地・年齢（年代））
（その他は、年代の回答がなかった方）

第 2 部：20 名
（うち 1 名は退室さ
れ、対話不参加）



第 2 部の対話の参加者 19 名の属性（居住地・年齢（年代））
（その他は、年代の回答がなかった方）

鎌倉市（行政経営部（齋藤）、公的不動産活用課（関沢、下澤、石塚、江川、山本））

㈱都市環境研究所等（大野、谷口、兼森、西村、荻原*、寛*）

*ファシリテータを務める。

- プログラム
- 第1部：（1）対話の目的や進め方の共有
（2）本庁舎等整備に関する情報の共有
（3）新しい本庁舎で実現・追加を期待したいことについての対話
- 第2部：（1）対話の目的や進め方の共有
（2）現在の本庁舎の場所の利活用の検討に関する情報の共有
（3）現在の本庁舎の場所で実現を期待したいことについての対話
- その他 託児を実施（第1部で乳幼児5名を受入れ。うち2名は開始直後に保護者参加辞退のため、退室）

2. 対話等の概要（第1部）

（1）対話の目的や進め方の共有

- ・ 鎌倉市からの挨拶に続き、ファシリテータから、本日の対話の目的と進め方について説明しました。

（2）本庁舎等整備に関する情報の共有

- ・ 鎌倉市から本庁舎等整備に関する検討の経緯、移転先の深沢地域整備事業用地の現状や想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域などについて説明しました。
- ・ 一部の参加者から、本庁舎整備に関するより詳しい説明を求める意見が示されたため、希望者（12名）と鎌倉市がロビーで意見交換を行いました。

（3）新しい本庁舎で実現・追加を期待したいことについての対話

- ・ 「ワールドカフェ*」という対話の進め方により、4人1組でグループをつくり、新しい本庁舎に何を求めたいかについて、テーブルごとに対話を行いました。約15分ごとに、各グループ1人を残して、メンバーを入れ替え、合計3ラウンドの対話を実施しました。対話を通じて、多くの参加者の考えや想いを共有しました。

*ワールドカフェとは、メンバーを交換しながらテーブルごとの小グループでオープンにテーマについて話し合い、参加者全員が知識や考えを共有する対話の手法です。



会場の様子（市民の皆さんが対話する様子）

- ・ 対話後には、参加者一人一人が「新しい本庁舎で実現・追加を期待したいこと」を付箋に書き出しました。書き出された 101 枚の付箋（模造紙への直接記入 1 つを含まず）は、これまでの市民対話の結果から抽出した次の区分で整理しました。

1. 堅固な建物で災害時に頼れる本庁舎
2. 最小限の機能を揃えた、コンパクトで効率的な本庁舎
3. 鎌倉の自然や歴史を感じ、市民のつながりを生かせる本庁舎
4. 人や民間資金を呼び込む本庁舎
5. 市民に寄り添った対応ができる本庁舎
6. バリアフリーやユニバーサルデザインに対応し、誰もが利用しやすい本庁舎
7. その他（上記に関連しない機能）

1. 堅固な建物で災害時に頼れる本庁舎 (27 枚)

敷地・建物の安全性

- ・ 減災拠点調整池等
- ・ 水防機能がある
- ・ 水害に関しては、1・2階に重要なものは整備しない

災害対策本部

- ・ 災害時に情報の中心となりえる機能を持つ
- ・ 災害時の本部としての機能性（備蓄、土地スペース）など
- ・ 防災指令塔としての機能
- ・ 防災指令拠点^{深沢} + 各地域支所での防災機能強化 + 物流・移動のための道路（自転車移動したい）〔付箋5枚での意見〕
- ・ 指令塔としての場所とネットワーク
- ・ 防災本部（備蓄スペース、ヘリポート、仮設住宅が建てられるスペース）
- ・ 防災の情報発信源の機能、HPの強化と対策
- ・ 震災時の対応ができる
- ・ どんな状況でも使える機能

防災教育

- ・ 防災教育が可能な場の提供
- ・ 災害啓蒙（津波てんでんこを小中学生が毎年学ぶとか）

受援等の空間

- ・ 災害時に支援物資等の車両のスペースが取れる
- ・ 自衛隊機がとまれる広域多目的エリアの駐車・ターミナル用地
- ・ 災害時の重病人の搬送に使用するヘリポート
- ・ 災害時用ヘリポート
- ・ 防災時の物資の運搬に使用するヘリポート
- ・ 物資を運ぶための道路。普段から通れるように（渋滞対策）

その他

- ・ 普段～災害時のトイレの充実
- ・ トイレは多めに設計
- ・ 防災拠点（避難場所等）
- ・ 震災時の衛生設備

2. 最小限の機能を揃えたコンパクトで効率的な本庁舎(16 枚)

コンパクト化

- ・ 人口減少に対応できる本庁舎
- ・ 用途転換できるフレキシビリティ
- ・ 多様な使い方ができるフレキシビリティ
- ・ コンパクト、ミニマムな設備構成

機能面

- ・ 必要最低限の本庁機能（深沢行政センターとかぶらない）
- ・ 鎌倉の事業者が利用できる広報システム
- ・ 医療との連携（非常時のレスキュー）

I T化など

- ・ 市民からの質問はA Iで！！（正確、職員の時間効率アップ）
- ・ I T化を進めて書類等はネットで、コンパクトなもの
- ・ A I化に対応できる機能

コスト面

- ・ 収益が出る庁舎。空いている部屋での賃料
- ・ 管理費・修理費がかからない施設

市民利用

- ・ お金になる機能は不要→**皆行かない**。起業家用スペース、貸会議場
- ・ 市民が利用できるシェアオフィス
- ・ 市民が利用できる会議室、公民館

その他

- ・ （効率化、コストを抑えるために）市民自身何を努力したほうが良いのかも考えたい

3. 鎌倉の自然や歴史を感じ、市民のつながりを生かせる本庁舎(8 枚)

歴史や文化を知る機会

- ・ 歴史や文化をあらためて知ることのできるスペース
- ・ 鎌倉の歴史～現在までが分かる展示
- ・ 教育の場（鎌倉の文化、歴史を学び、誇りを持つ） 旧庁舎機能？
- ・ 屋上で地域を見渡せるよう、歴史的な古戦場跡地が見渡せる

鎌倉らしさ

- ・ 鎌倉らしさを大切にしたい、落ち着いて開かれた市役所

- ・ 「鎌倉らしさ」は出せるのか？ 理想ですが、それは何かということ
- ・ 鎌倉らしさは不要。年代・性別によって希望が違うので考慮しない

その他

- ・ 「ごみ分別」を誇りにしても良いと思いますが（笑）←肯定の

4. 人や民間資金を呼び込む本庁舎(12 枚)

オフィス機能

- ・ ベンチャー企業のインキュベーションセンター
- ・ 中小企業支援、貸共同オフィスの運営
- ・ 最先端技術の実験の場としての市役所
- ・ 無償でパソコン等利用、起業支援
- ・ 企業や個人に貸出できるスペース・ブース
- ・ テレワークオフィス

住宅利用への懸念

- ・ マンション（居住）との併用は公平性を問われたり、あまり理想的ではない感じがする

店舗機能

- ・ 自由に利用出来る食堂レストラン、コンビニ等を併設する

来街者対応

- ・ 観光資源になるデザインと機能

その他

- ・ アイデアを出しあって“稼げる空間を”！
- ・ 民間を積極的に受け入れて、収益性UP！！
- ・ 広報機能（FM放送等を併合する）

5. 市民に寄り添った対応ができる本庁舎 (17 枚)

交流機能

- ・ 世代間交流が出来る場づくり
- ・ 鎌倉らしい各世代のコミュニティスペース、場の確保
- ・ 市民が自由に集まれる。行政機能だけでなく、憩いの場として

交通アクセス

- ・ 鎌倉庁舎とのバス直通線の配備
- ・ 機能は分散する。教育・行政は鎌倉では交通の便が悪いので、統合は市民には不便になる
- ・ 鎌倉地域とのシャトルバス（ヨーロッパの電車？バス？みたいのとか）
- ・ 自転車道路の充実
- ・ 駐車場を整備する（2階、3階等多層的な）

窓口の利便性

- ・ 夜間も利用できる
- ・ 土日に開いている窓口

子どもの居場所

- ・ 子ども専用フロアのある図書館
- ・ 子育て複合型施設（大和市シリウスみたいな）
- ・ 子どもが遊べる場所が欲しい

店舗機能

- ・ 安くてうまい食堂！！

その他

- ・ 普段からのコントロールセンターになる庁舎、各種訓練
- ・ シルバーエイジが働くことができる保育園
- ・ 育児支援施設、ショッピングモール

6. バリアフリーやユニバーサルデザインに対応し、誰もが利用しやすい本庁舎（12 枚）

子連れ、車椅子対応

- ・ 車椅子やベビーカーでも利用しやすく、バリアフリーに
- ・ 子育て世代向けの複合施設
- ・ 車椅子、ベビーカーが通っても余裕な道幅
- ・ 子どもを連れていきやすい施設
- ・ バリアフリー化、育児フリー化

セキュリティ対策

- ・ 庁舎内のカメラ等のセキュリティの強化された舎屋

設備など

- ・ トイレ数の充実 ※特に女性向け
- ・ 有効なフリースペースのある設計

ウェルネス

- ・ 健康増進、遊歩道

交通アクセス

- ・ 交通アクセス（モノレール、JR新駅等の構想）

来訪者対応

- ・ 来訪者向けは旧庁舎、市民生活向けは新庁舎（行政に特化）
- ・ 海外からの来訪者に対応する機能

7. その他（9 枚）

水害対策

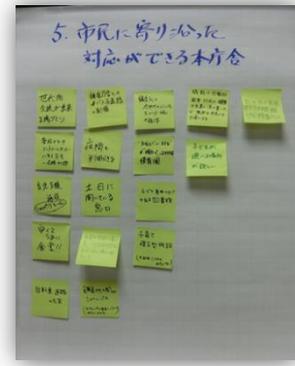
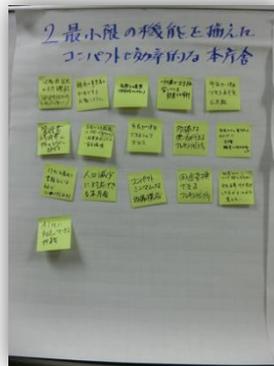
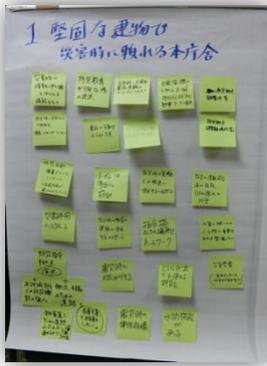
- ・ 水害を生かした境川のような親水公園〔模造紙への直接記入意見〕
- ・ 防災
- ・ 分散

- ・ 親水公園
- ・ 水害をクリアしてから何が必要か

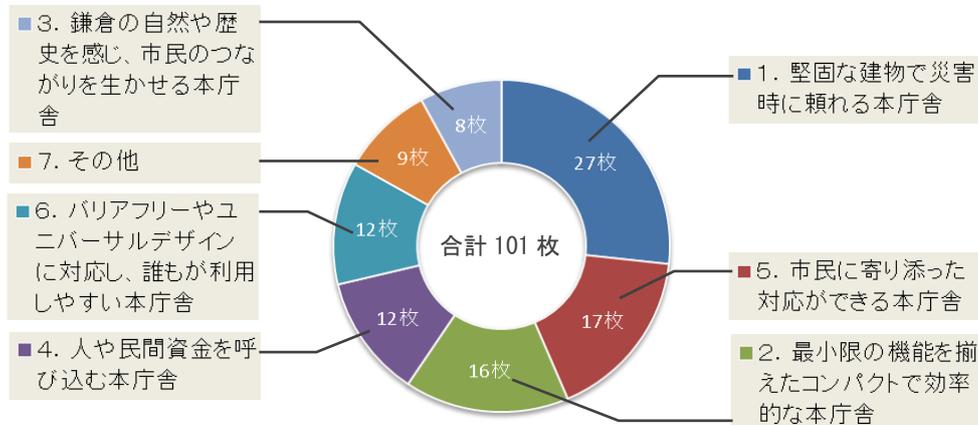
その他の機能

- ・ 資料コーナー拡大室
- ・ 深沢にバスターミナルをつくって、鎌倉の観光地や海へつなげる。大きな駐車場をつくって、車をあずかってもらう
- ・ 保健所を入れる
- ・ 市民の人が気楽に市長と話し合える場所
- ・ そもそも市庁舎に来なくても良いようなIT化

※ 各区分の中で関連する意見を整理しています（順不同）。



対話で出た本庁舎で実現を期待したいことなど（一部抜粋）



付箋の枚数の割合（多い区分順）

- ・ 書き出された 101 枚の付箋のうち、4分の1以上（27 枚）が「堅固な建物で災害時に頼れる本庁舎」関連の意見に集まりました。災害対策本部や受援関連の意見には、「ヘリポートの設置」や「支援物資の車両スペースの確保」など具体的なアイデアも多く、市民の皆さんの防災への関心の高さを改めて確認できました。
- ・ 「市民に寄り添った対応のできる本庁舎」にも 17 枚の付箋が集まり、とくに交通アクセスの充実、交流機能や子どもの居場所をつくることに関する意見が集まりました。また、「最小限の機能を揃えたコンパクトで効率的な本庁舎」にも 16 枚の付箋が集まり、本庁舎がコンパクトであること、また、多様な用途に柔軟に対応できる本庁舎であってほしいという声も改めて確認できました。

3. 対話等の概要（第2部）

（1）対話の目的や進め方の共有

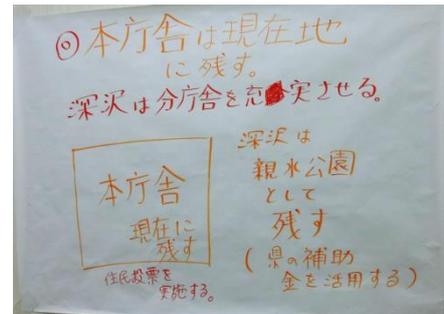
- ・ 鎌倉市からの挨拶に続き、ファシリテータから、本日の対話の目的と進め方について説明しました。

（2）現在の本庁舎の場所の利活用の検討に関する情報の共有

- ・ 鎌倉市から現在の本庁舎の場所の利活用に当たって、図書館や学習センターの機能といった導入を検討している機能などについて説明しました。

（3）現在の本庁舎の場所で実現を期待したいことについての対話

- ・ 第1部同様に「ワールドカフェ*」により、4人1組でグループをつくり、現在の本庁舎の場所で何を実現したいかについて、テーブルごとに対話を行いました。約20分ごとに、各グループ1人を残して、メンバーを入れ替え、合計3ラウンドの対話を実施しました。対話を通じて、多くの参加者の考えや想いを共有しました。
- ・ 対話の開始直後、参加者のうち1名が、グループによる対話を否定して自分の意見を模造紙に書き始め、「本庁舎を現在地に残すという意見を発表させてほしい」と主張しました（意見は写真のとおり）。対話の場であり、対話の中で意見を出してほしいと進め方を再度説明しましたが、聞き入れてもらえず、鎌倉市として意見を受け取るとしたところ、退室されました。



退室者が残された意見



会場の様子（市民の皆さんが対話する様子）

- ・ 3ラウンドの対話の後には最初のグループに戻り、それまで対話した内容を踏まえて、「現在の本庁舎の場所で実現を期待したいこと」を各テーブルで1枚の模造紙に描きました。チーム発表の内容は、次の観点を盛り込んでもらいました。
 - 住民目線で必須と思うこと
 - 観光客目線で必須と思うこと
 - 必須ではないけど実現できたらワクワクすること

- 描いた模造紙の内容を、各チームから共有していただきました。各チームの発表の概要は次のとおりです。発表順にテーブル①～⑤としています。

テーブル①の発表内容

住民目線で必須と思うこと

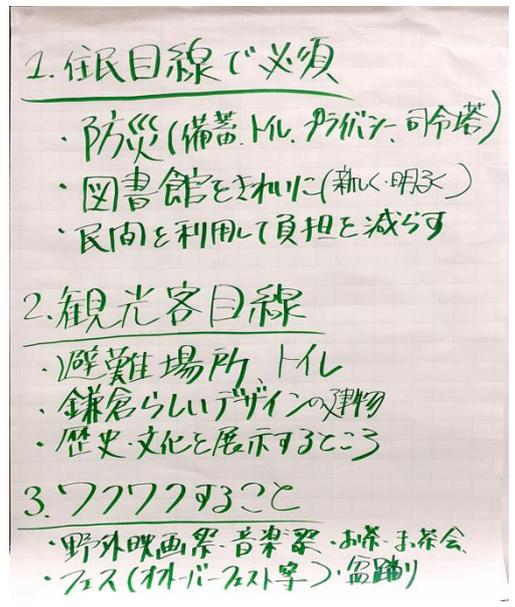
- 防災機能をしっかりとすること（例：備蓄、トイレ、プライバシー、司令塔）
- 新しい図書館はきれいで質の高いものがよい
- 民間を積極的に利用して、財政負担を減らせきるとよい

観光客目線で必須と思うこと

- 災害時の観光客の避難場所の機能を持たせる
- デザインが鎌倉らしくなるとよい
- 歴史文化を展示するような場所があるとよい

実現できたらワクワクすること

- 野外映画祭・音楽祭・お茶会、フェス、盆踊りなどが気軽にできる場所がほしい

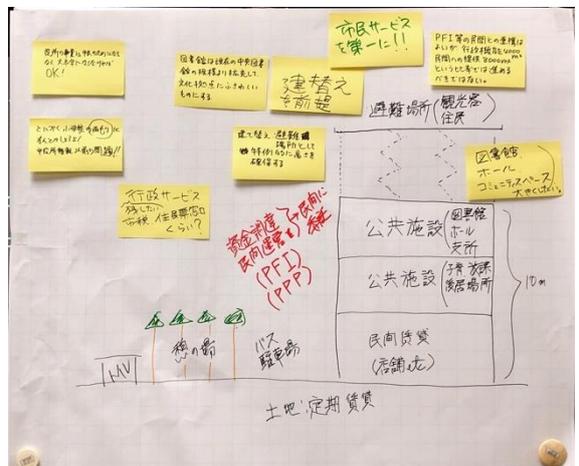


テーブル②の発表内容

- 建築条件で高さ 10m までしか建てられないため、各階にどんな機能が入るとよいか整理した

- 1階：民間に床を貸して運用する
- 2階：公共施設（例：学習センター、育児サポート機能）
- 3階：公共施設（例：図書館、ホール、支所機能）

- 建物が建っていない場所は、観光客のための避難場所としての機能を持たせる
→観光客が把握しやすいよう、シンボリックな建物にすべきではないか
- 駐車場には観光客が利用できるバス駐車スペースやトイレがあるとよい
- 上記の施設を民間に運営させてみては。PPP や PFI や定期借地権などの手法を検討



テーブル③の発表内容

住民目線で必須と思うこと

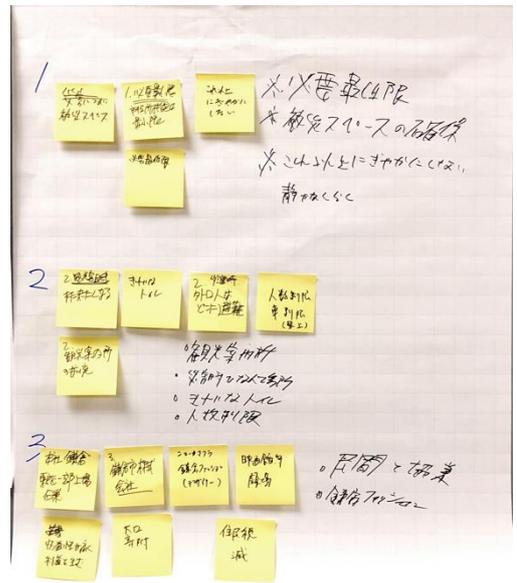
- ・支所として必要最低限の機能を確保
- ・避難場所としての機能を確保
- ・これ以上は賑やかにしないでほしい

観光客目線で必須と思うこと

- ・観光案内所（駅から移転し拡充）、また来たく
なるような鎌倉に
- ・静かにしてほしいので、観光客を人数制限して
はどうか。

実現できたらワクワクすること

- ・商業、産業を導入
- ・鳩サブレやパタゴニアなど鎌倉市内の企業と連
携し、鎌倉ブランド、ニューブランド、ファッ
ションの発信拠点に



テーブル④の発表内容

住民目線で必須と思うこと

- ・鎌倉らしさをアピール
- ・鎌倉歴史文化センター、観光案内所を併設
- ・作品の展示
- ・世界遺産登録のために準備したものを展示
- ・映画館として使用できるとよい

観光客目線で必須と思うこと

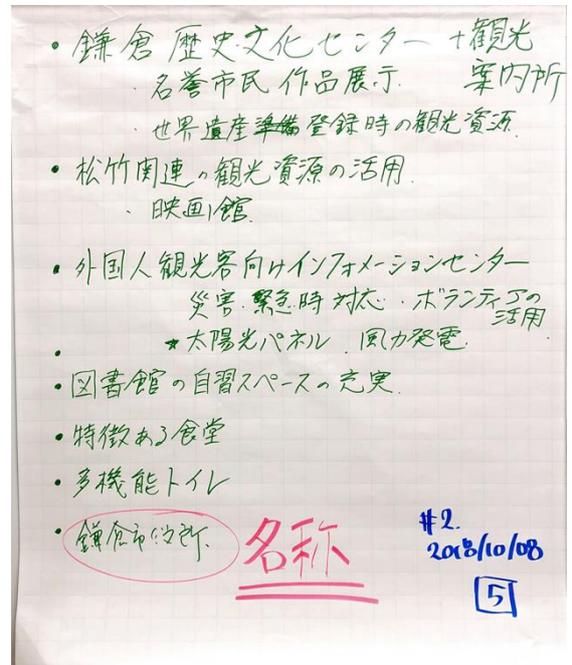
- ・インバウンド需要狙い。外国人観光客の緊急
対応
→太陽光、風力発電など災害に強く

実現できたらワクワクすること

- ・図書館の自習スペースが足りない。拡充して
ほしい
- ・特徴ある食堂を併設してはどうか
- ・トイレが利用できるとよい

その他

- ・今の庁舎を「本庁舎」と呼ぶようにしてはどうか



テーブル⑤の発表内容

住民目線で必須と思うこと

- ・ 文化的施設（例：映画館…昔は鎌倉市内にたくさんあった）
- ・ 市議会の様子を見せる空間をつくってはどうか（例えばショーみたいに）
 - 市議会のやりとりも文化である
 - 市議会がないときは劇場として使う
- ・ 長時間滞在できる図書館（逗子市の図書館のような）

観光客目線で必須と思うこと

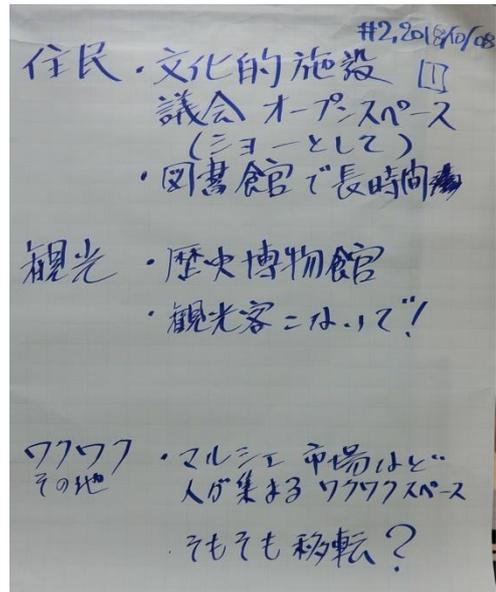
- ・ 歴史博物館があるとよい（住民として静かに暮らしたい気持ちもあるため、観光客を増やしたくないという意見もあり）

実現できたらワクワクすること

- ・ みんなが気楽に立ち寄れるスペース
- ・ マルシェ、市場等ができるオープンスペース

その他

- ・ そもそも移転することに対して疑問もある



発表の様子

- ・ 住民目線と観光客目線の双方で、防災機能（特に災害時の観光客の避難場所）の重要性や鎌倉の歴史や文化に触れる機能の大切さについて、意見が出ていました。
- ・ 住民目線では、図書館・支所としての機能、映画館などの機能を求める意見も、複数のチームから発表されました。
- ・ 観光客目線では、鎌倉らしい建物・デザインの大切さと観光案内所の充実に関する意見が複数のチームから発表されました。一方、これ以上賑やかになってほしくない、観光客を増やしたくないという意見もありました。

- ・ さまざまなイベント（野外映画祭、盆踊り、マルシェ等）を行えるようなオープンスペースへの期待について、「実現できたらワクワクすること」として複数のチームから発表されました。

4. 今後の進め方

拡張ワークショップの内容をもとに、市民対話メンバーによる市民目線での本庁舎のあり方についての対話（第5回・最終回）を平成30年11月3日に開催しました。今後、市民対話でのご意見を生かした「本庁舎等整備基本構想」の策定を進めていきます。